

地域づくり表彰

松浦市（長崎県松浦市）

“アジの水揚げ量日本一”

「アジフライの聖地 松浦」プロジェクト

松浦市
市長

ともだ よしやす
友田 吉泰



1. 松浦市の概要

松浦市は、長崎県本土の北端に位置します。伊万里湾を中央に配し、他の三方は佐世保市、平戸市、佐賀県伊万里市と接しています。山地が多く、入り組んだ海岸線は風光明媚であり、一部は玄海国定公園、県立公園となっています。

アジ・サバの水揚げ全国屈指の公設魚市場をはじめとして、トラフグ・クロマグロ・クルマエビなどの養殖も盛んであり、水産業が産業の重要な位置を占めています。



令和3年春に生まれ変わった松浦魚市場

また、国際貿易港や総出力370万kwの石炭専焼火力発電所、LPG基地があり、伊万里湾とエネルギーを活かしたまちづくりを進めています。平成24年3月には元寇の軍船や遺物が発見された松浦市鷹島町神崎免の沖合海域が、日本で初めての海底遺跡「鷹島神崎遺跡」として国史跡に指定されました。日本一のアジの水揚げを誇る本市をPRするため、平成31年4月27日には「アジフライの聖地」を宣言し、現在、市内30店舗でアジフライを提供しています。

2. 活動開始の背景・経緯

「松浦市をアジフライの聖地にする。」これは、平成30年2月に就任した友田吉泰市長の公約の1つでした。地域の素材に磨きをかけ、こだわりを創造して発信していくことが「地域づくり」につながるの思いがあった友田吉泰市長は、松浦市に

当たり前にあった「間違いなく旨いアジ」に着目。素材を磨き上げる（アジをフライにする）ことで「松浦＝アジフライ」のイメージを定着させる取り組みを開始しました。

3. 「アジフライの聖地 松浦」宣言

平成31年4月27日、松浦市と、日々アジフライを提供している市内の連携店（当時20店）は、おいしさを保つための独自の条文からなる「松浦アジフライ憲章」を掲げ、松浦市が「アジフライの聖地」であることを正式に宣言しました。令和3年9月現在、連携店数は30店まで増え、広がりを見せています。



「アジフライの聖地」宣言時の様子

4. アジフライに合うソース選手権

松浦水軍まつりは、毎年約3万人が訪れる松浦市最大のおまつりです。まつり実行委員会が「アジフライに合うソース選手権」を提案し、令和元年秋のまつりに併せて実施しました。事前に全国から応募があったレシピ11品を再現し、来場者に食べてもらい投票してもらうというユニークなスタイルで、会場ではアジフライを求め大行列ができました。投票で1位に輝いたのは「定番のタルタルソース」でした。



アジフライに合うソース選手権

5. アジフライデー制定

アジは魚偏に参(3)と書き、金曜日（フライデー）のフライ（揚げる）であることから、毎月第3金曜日をアジフライデーと制定しました。アジフライデーには市内小学校給食でアジフライを提供、市内連携店のアジフライデー割引キャンペーンや、全国の「アジフライの聖地 松浦」PR協力店でのPRを続けており、官民一体でアジフライデーを盛り上げています。



アジフライデーの長崎県庁食堂の様子

6. 進化を続けるアジフライマップ

毎年1回アジフライマップ(冊子)を更新しています。特集として、第1弾では市内のアジフライ食べ歩きマップ、第2弾は福岡天神人気食堂・梅山鉄平食堂をアジフライでジャック、第3弾はアジフライの名店・東京高田馬場の酒肴新屋敷とコラボレーションするなど、地元にとどまらず着々と全国へ取り組みの輪を広げています（アジフライに乗って全国へフライ（＝飛行））。また、当冊子のイラストを手掛けたのは人気アーティストNONCHELEEE氏。独特のタッチで一度手に取ると忘れられないデザインに仕上がりに、さらに当冊子はコンクールにおいて日本一となる数々の賞を受賞しました。



歴代のアジフライマップ

7. 体験型旅行アジフライメニュー

これまで約 30 万人を受け入れてきた「ほんなもん体験(体験型旅行)」。体験メニューに「オールアジフライ体験」が登場しました。地元漁師指導のもと沖でアジを釣ることからスタート。陸に戻ると地元の担い手がアジのおろし方、骨抜きなどのさばき方を丁寧に指導。実際に調理をし、聖地で新鮮なアジフライを食べて楽しむという贅沢な体験メニューとなっています。



アジフライ体験メニュー

8. 石工モニュメント

松浦アジフライ憲章第 7 条～私たちは、松浦アジフライのおいしさを広く伝播します～を実現するため、市の特産品である阿翁石と、約 450 年続く石工技術を活用し、市内 4 箇所にデザインが異なる「アジフライの聖地 松浦」石工モニュメントを設置しました。阿翁石は粘着力に富み繊細な加工に適しており、風化作用にも耐えるという特長を持ちます。このモニュメントは観光スポットとして「アジフライの聖地」を未来に繋ぐとともに、地元の石工技術の継承にも役割を果たしています。



石工モニュメント(道の駅鷹ら島)

9. PR アイコンロゴマーク

「アジフライの聖地 松浦」が目で見えるようロゴマークを制作しました。アジフライを箸で持つ斬新なデザインのロゴマークは、のぼり旗となり、全国での「アジフライの聖地 松浦」の PR 役を担っています。



ロゴマーク



10. アジフライグッズ

人気アーティスト NONCHELEEE 氏の松浦観「青い海と空に映える'ポップ'でユニークなオンリーワン」を現実世界に表現するため、「アジフライの聖地 松浦」の存在を可視化したアジフライグッズが誕生しました。このアジフライグッズは松浦市限定で販売されており、観光客誘客のアイテムとなっています。アジフライグッズを通して、アジフライの美味しさを多くの人に伝えています。また、グッズのうちアジフライポロシャツ(背面にアジフライの作り方がデザイン)は市職員や市内飲食店、市民等のユニフォームにもなっており、市内全体で聖地 PR を盛り上げています。



アジフライポロシャツ

11. 商標登録完了

取り組みの広がりとともに認知度が高まってきたため、松浦市は商標登録を出願し、令和 2 年 12 月、「アジフライの聖地」の商標登録が完了しました。



商標登録完了

12. “魚松味”アジフライ定食発案の先輩に続け! 地元高校に「地域科学科」新設

ジョイフル松浦店限定で「魚松味(うまかばい)」! (※造語)アジフライ定食」の販売が開始。これは、地元松浦高校と松浦市が地域の課題解決に取り組む教育活動(通称:まつナビ)の中で、高校の生徒の提案により実現したものです。この取り組みの影響もあってか、松浦高校に深化した普通科「地域科学科」が新設されます。この学科は地域の課題解決を学習し、学校の特色をアピールしていくとのこと。「アジフライの聖地松浦」プロジェクトの成果は、今後ますます松浦市の子どもたちの未来を明るく照らしていくと信じています。



メニューを発案した地元高校生

このように、様々な取り組みとともに「松浦=アジフライ」の定着を肌で感じています。素材の発見⇒磨き上げ⇒地域との連携⇒発信⇒ロゴマーク⇒オリジナルブランド⇒知名度アップ⇒観光客誘致⇒商店街の活性化⇒素材の再発見⇒地域づくりと、一つ一つのピースが掛け合わさり「アジフライの聖地 松浦」が形になりました。今後も「アジフライの聖地」を核に地域経済を活性化させ、「魅力ある地域づくり」を目指していきます。